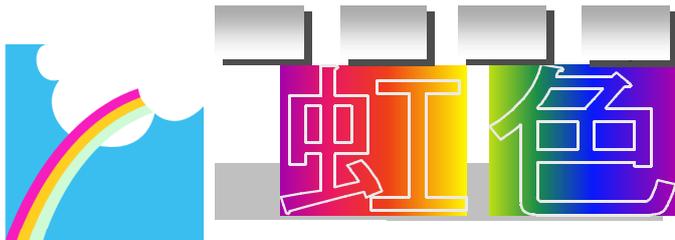


＝ 発 行 ＝
 秋田県生涯学習センター
 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
 TEL : 018-865-1171
 FAX : 018-824-1799
 E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp
 編集担当：社会教育アドバイザー



風薫る五月になりました。今年の春は、太陽の輝きも不足がちで「四月の雪」のニュースのおまけ付きでした。木々の芽吹きもやっとそろい、若葉の緑が目にも染みます。

本号から、生涯学習センター武藤所長の俳句を掲載いたします。日本語の美しさ、俳句の奥深さ、情景の瑞々しさを楽しく味わっていただければ幸いです。

『膝掛けのきのふもけふも花曇』

桜前線が近づいてきても、寒い日が続きました。雪国育ちの人間にとっては、冬空の心の重みから解き放たれる「あこがれの春」なのに、今年は、桜の開花が10日ほど遅れました。花曇の2字に様々な思いが交錯しました。今年の春ならではの、感慨深い一句です。

『桜餅咲きたる花と紅競ふ』

「桜餅を作っているお菓子屋さんでは、咲く桜の色に合わせて紅の色を加減する」ということを聞き、なんと趣きの深いお話なことかと感動しました。桜餅の香りを思い出しながら、幸せな気分になりました。

どうぞ、次号の俳句を楽しみにしてください。

美の国カレッジ、開講式でいよいよスタート！



5月22日、県生涯学習センターにおいて平成22年度美の国カレッジ総合開講式が開催されました。

開講式では奨励証の授与があり、参加した9名が副学長から奨励証を手渡されました。

修得単位は、プラチナマナビストが1000単位、ゴールドマナビストが500単位、シルバーマナビストが300単位、ブロンズマナビストが100単位、わか杉マナビストが50単位ということで、生涯学習に

対する意欲の高さが伺えました。今回の奨励証の認定者の中に西仙北高校の2名が含まれており、美の国カレッジの年齢層の厚さに驚きました。

開講式では、ボランティアの活躍があり、整然とした雰囲気の中に和やかさを醸し出していました。笑顔で温かく迎えてくれた受付のボランティア、秋田県民歌のピアノ伴奏者など、人々の心がうれしい開講式でした。



開講式後、ジャーナリスト石川嘉明氏の開講記念講演がありました。演題は、「“秋田活性化”へのアプローチ」です。昭和45年に小畑勇二郎知事が生涯教育を全国に先駆けて立ち上げ人づくりに取り組んだこと、税金・人口の減少は二つの危険信号であること、大風呂敷を広げないで、身の丈にあった活性化を進めればよいなどのお話がありました。「一步の成功は、さらなるジャンプの一步になる」「それぞれの立場で問題意識をもって、新しい軌道修正をしていくことが大切である」という言葉が心に残りました。具体的な数字を挙げながらユーモアあふれる語り口で少子化の原因や対策について話し、ジャーナリストらしい講演でした。

意識をもって、新しい軌道修正をしていくことが大切である」という言葉が心に残りました。具体的な数字を挙げながらユーモアあふれる語り口で少子化の原因や対策について話し、ジャーナリストらしい講演でした。

膝掛けのきのふもけふも花曇
 桜餅咲きたる花と紅競ふ

武藤四郎 作



<地域マイスター養成講座のすごさ！> 美の国カレッジ主催講座

今年度も、地域マイスター（親方、名人などの意味があります）を養成する講座が県内3か所で開催されます。この講座では、今年度、講話・演習の経験をし、次年度には実際に子どもたち向けの「キッズ&ユース・カレッジ（地域での体験講座）」を開催します。きっと、子どもたちをわくわくさせる地域性豊かな体験が組み込まれることでしょう。

この講座のすごさは、講話や演習で考え方やノウハウを学び、次年度は「キッズ&ユース・カレッジ」を実際に行うことができることにあります。地域マイスター養成講座を受講することで、地域マイスターが実際に誕生していくことに社会教育の重要性を感じます。

行政と地域住民との連携で様々な分野での地域マイスターの誕生が進んだら、秋田県活性化の大きな力になるのではないのでしょうか。地域住民の主体性が、これからますます重要になると思います。



「グレアカ・健康レク・OB会」の活動に学ぶこと

※ グレアカは、グレートアカデミーの略

～生涯学習の意味、意義、価値～

平成22年4月8日（木）「グレアカ・健康レク・OB会」グループの活動が、スタートしました。マイスター講座修了後自主的な活動を開始した本グループは、第2・第4木曜日に活動しており、まさに生涯学習の求める姿を展開しています。

この日は、生涯学習センターの佐々木伸一主任社会教育主事のワークショップからスタートが切られました。ワークショップでは、二つのグループに分かれて1分間スピーチをした後、「幸せになるために」というテーマで、話し合いました。

付箋紙には、豊富な人生経験を積んだ方々ならではの「究極の幸せ」が書かれておりました。一部を紹介します。

<こんなとき、幸せを感じます>

- ・孫に、うまこ（お年玉）をあげるとき
- ・子どもが褒められたとき
- ・孫の頑張りぶりを見たとき
- ・子どもや孫と電話で話すとき
- ・孫に年数回会えること
- ・孫と遊んだとき



- ・健康で晩酌ができること
- ・妻の笑顔を見たとき
- ・家内と晩酌ができること
- ・妻とドライブのとき
- ・妻とウォーキングのとき
- ・主人がお風呂の支度をしてくれたとき
- ・おいしいお菓子、食事を食べたとき

- ・生きていることを実感するとき
- ・1日が無事終わり、眠りにつくとき
- ・衣食住に困らないこと
- ・健康と思える日
- ・人間ドック結果、合格！

- ・きれいな景色を見たとき
- ・運転できること
- ・旅行に行ったとき
- ・読書ができること
- ・欲しい物が手に入ったとき
- ・故郷の山での山菜採り
- ・飼い犬との触れ合い
- ・研究材料が見つかったとき

- ・よいお話が聴けたとき（講演、講話）
- ・友達がいっぱい集まって話をするとき（おしゃべり）
- ・買い物で気に入ったものが買えたとき
- ・ダンスの仲間と踊っているとき



「感動すること」は、脳を活性化し成長させると、脳科学者の茂木健一郎氏が語っています。「グレアカ・健康レク・OB会」のみなさんは、「人・知識・体験」と出会い、感動の場を共有しているようです。平均年齢74歳とは思えない若さです。

「仲間は、友達というよりはむしろ家族です」と話していました。主体的に生涯学習を進めている「グレアカ・健康レク・OB会」のみなさんは、明るく元気いっぱいでした。生涯学習の意味、意義、価値を教えていただいた思いがしました。

